

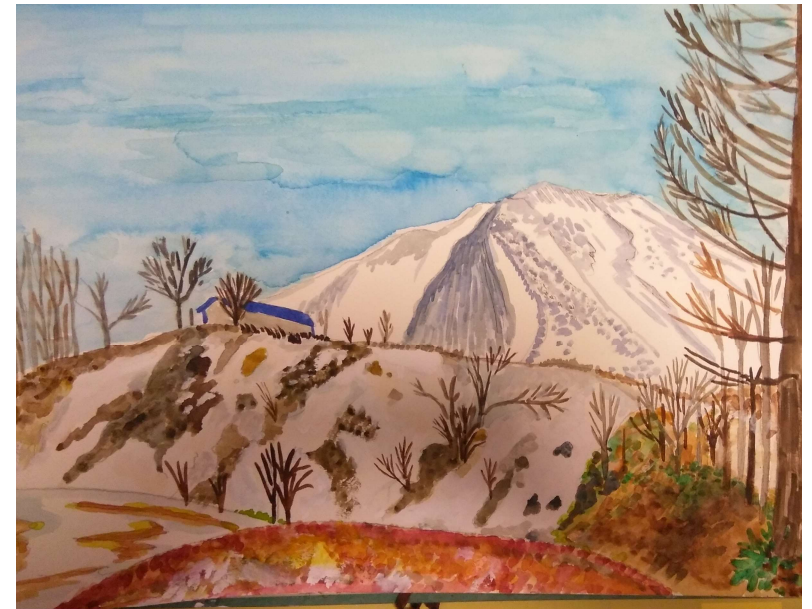


# 認知症ケアの アート入門 ー絵画・スケッチからー

---

ぐんま認知症アカデミー第17回春の研修会  
2022年6月5日 群馬大学 内田陽子

# 「描きたい」という動機・感動がある







新年を迎えて 2020年1月6日 | NTTデータ経営研究所  
([nttdata-strategy.com](http://nttdata-strategy.com))

## 色のコントラスト

# 日曜美術館 NHK Eテレ 2022年5月8日放送から 内田メモ

- 「古い時代の絵画は**約束事を理解**しなければならない」
- 「近代の風俗画は**教訓的な意味**をもつ」
- 「絵の見方は**自由**。**文化を知る、相互の世界を知る**」
- 「絵はイメージが**多義性**になる」

(東大、三浦先生)

- 「**枠の中でどれだけ自分を出せるか**」
- 「**ポージングが重要**」

(漫画家、青木氏)

- 「**(一筆の線は)自分の思い通りにいかない、いい気にさせないが絶望にはさせない**」  
(書道家・篠田桃紅)

# 医学・看護・ケアでのスケッチの意義

- ・医学では細胞や解剖の臓器等をスケッチさせる実習がある
- ・看護でも褥瘡などをスケッチする研究技法が登場している

# 認知症ケアにいかすアート入門・まとめ

- ・対象・現象を捉える方法として絵画・スケッチがある
- ・対象・現象にへの魅力が動機となり、大変集中力を要する作業  
⇒認知症の人に興味をもち、要観察、それを映像化する  
(情報アセスメント)
- ・主役を決める・脇役との相互作用を考える
- ・⇒主役は認知症の人、周囲の環境も考える
- ・平面の世界を立体的にみえるための工夫(色コントラスト、明度)
- ・⇒認知症の人は空間認識が困難なときがある。
- ・看護・ケアはサイエンスをめざすが、アートでもある